

「布施」

千葉県 般舟寺住職 石川大光

總持寺での修行中に境内の掃除をしていた時、幼稚園くらいの子が、「いつもお掃除してくれてありがとうございます」と言ってくれたことがありました。私は全く予想してなかった出来事で少し戸惑ってしまったのですが、すごくうれしい気持ちになりました。そしてその子がとてもうれしそうに笑顔でいたことが、今でも心に残っています。

当時はそこまで思い至ることはできませんでしたが、これこそが布施という行いなのだと思っております。「布施」という言葉をご存じの方も多いと思いますが、「布施」とは物でも心でも惜しみなくあたえるという意味があります。そして私が特に大切だと思うことは、恐らく「布施」という言葉も意味も知らない子がそれを実践できているということです。つまりはその子の中に仏様がいらっしゃるのです。この子だけではなく皆さんの中にも仏様はいらっしゃる。そう私は考えます。

誰かの為に何かした時、相手から喜んでもらえたり、お礼を言われたりするのでは…などといふ考えてしまうことがあります。「布施」とは本来その様なことは考えずに、ただ一心に相手の為のみにのみであり他のことを考える必要はありません。結果として相手が喜んでくれれば、私も嬉しくなれるというものです。

しかし、人の心は簡単ではなく、人の為に何かすれば自分が損をする、何かをあげれば自分の分が減る、という思いが生まれてきます。ですが、誰かの為に一心にした行いは自分も相手も報われるというのが本当の姿なのです。

誰の中にも仏様はいらっしゃる、私たちは気付かなくてもその行いをしています。それは特別なことではなく、初めにお話しした幼稚園くらいの子が嬉しそうに笑顔で「ありがとうございます」と言ってくれたような、ほんの些細なことかもしれません。ですがその一つひとつの積み重ねが皆さまの幸福に繋がっていくものと信じております。